8.15 「東チモール国際連帯会議」(ニューヨーク)に参加。その後，オランダの「インドネシア委員会」などと交流。

9.26 ポルトガル大使館でモイタ大使と会見。

86.11 『地図から消された東チモール』(ありえす書房)を翻訳出版。全国の仲間と，東チモール人ロペス・ダ・コスタ司教とミミ・フェレイラさんを日本に招く。

87.5 連帯する会スタッフ，リスボン訪問。

連帯する会入会案内

※入会金　1000円
※年会費　3000円

会員には，定期的に東チモールに関する情報をお届けします。また，冊子『小さな島の大きな戦争』をプレゼント。

私達はことし，ジョゼを日本に招きます。ジョゼの来日プログラムを，一緒につくりませんか。

連絡先　京都市左京区吉田下阿達町9　〒606
京都市民ネットワーク内　075-771-2594

TL 1167

VOICE OF EAST TIMOR

ほんの5000kmの距離にある『遠い夜明け』

東チモールの独立に連帯する会

5000kmの距離にある『遠い夜明け』

R．アッテンボローの映画『遠い夜明け』では、想像を絶する虐待と屈辱にまみれる南アフリカ共和国内の黒人の生活、さらに黒人指導者ビーコウを中心に、自由を求めて戦い続ける黒人達の魂が描かれています。

人種隔離政策ーアパルトヘイトー。世界じゅうの国々から、この政策をやめさせるために、南アとの貿易をつつしむべきだとの声があがっています。しかし、日本の企業は南アにある市場を手放そうとはしません。今年、日本の対南ア貿易額は世界第1位になりました。

同じような「共犯関係」が、日本とインドネシアの間にもあります。インドネシアの東チモール侵略に対して、国連は毎年「東チモール自決権決議」を採択してきましたが、日本政府は一貫してこの決議に反対し続けています。それは、日本が経済や政治の面でインドネシアと深い関係をもっているからです。たとえば日本は原油・天然ガス・ニッケルといった資源を多くインドネシアから輸入しています。これらの資源を開発するために投資を行い、東チモール侵略に目をつぶって最大の援助をしています。

南アでの黒人差別政策もインドネシアに占領された東チモール人の同化政策も根っこのところは全く同じです。黒人や東チモール人の「自由の権利」を認めないということです。南アの黒人も東チモール人も白人やインドネシア人から「子どもを生むな」と言われて危険な方法での“避妊”を強制されています。先進国で使用禁止になった米国アップジョン社製ホルモン注射「デポ・プロベラ」は南アと東チモールで多くの女性の身体をいためつけました。

“CRY FREEDOM” いま世界じゅうで自由を求める多くのビーコウ達が戦い続けています。私達はこれらのビーコウに対して何ができ、彼等から何を教えられることができるのでしょうか。

東チモールの独立に連帯する会　活　動　年　譜

1984.4　資料収集，整理開始。スライド会開催。
85.2　フレテリンの国連代表ジョゼ・ラモス・ホルタ氏来日。「連帯する会」結成。
85.9　『小さな島の大きな戦争ー東チモール独立革命戦争ー』出版。4紙に紹介記事。
86.8　全国の東チモール支援グループで社民連代表江田五月議員を国連「非植民地化特別委員会(24か国委)」へおくる。
87.8　元東チモール駐留陸軍小隊長岩村正八さんを国連の24か国委におくる。
87.11　「非核独立太平洋会議」「アジア太平洋東チモール問題会議」に参加。
フレテリンのロック・ロドリゲス氏来日。
88.1　各グループの代表とともに外務省の人権難民課長，南東アジア二課長らと会見。
88.2　ウィーンの「東チモール連帯会議」に出席。

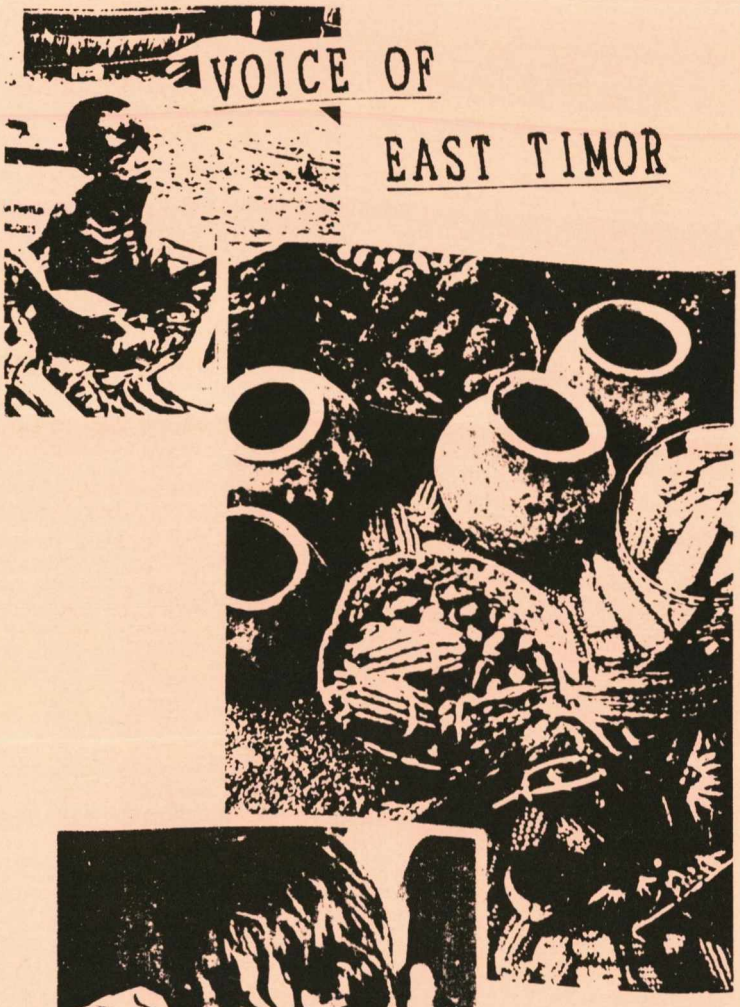
日本の政策がかわるなら，インドネシアを和平交渉にひっぱり出すことも夢じゃないと思います。

1987年5月、明るい日差しあふれるリスボンで私は彼に会った。ジョゼ・マヌエル・ゴメス・グテレス、25歳。彼は三カ月前、戦乱の故郷東チモールを逃れてここにきた。

インドネシアとオーストラリアの間にあるチモール島の東半分を占める小さな国。この平和な国が75年、宗主国ポルトガルから独立した直後に隣国インドネシアの侵略を受け、60万国民のうち20万人が戦闘、飢え、病気等によって死んだと伝えられている。

8月、ジョゼはジュネーブにとんだ。故国の実態を国連の人権小委員会で訴えるためだ。今、彼はリスボンで中学に通っている。ジャーナリスト志望だという彼はこのインタビューに興味津々で、私のほうはいつになく緊張してしまった。

（インタビュアー REI. IKUSIMA）



R　本当を言うと20万人という犠牲者の数がピンとこなかったのです。でもここにきてここで会うどの東チモール人も皆親しい人を戦争でなくしていて、家族が全員無事だなんて所はどこにもなく、ああこういうことだったんだなあって…。それにしてもジョゼはよく生き残れましたね。

J　75年12月にインドネシア軍が上陸してきたとき私は山岳地帯に逃げました。それからフレテリン（東チモール独立革命戦線）に加わったんです。でもインドネシアは抵抗勢力を一掃するため、山間部に集中爆撃を行って全てを破壊し尽くしました。その後にやってきたのは悲惨な飢餓でした。その79年、私は逮捕され兵士の小間使いをやらされました。

R　ではインドネシア軍の行為を間近で見ていたわけですね。

J　はい、悲惨な光景を随分…。フレテリンゲリラの支配地区で女性を捕まえたとするでしょう。そうすると隊員全部でその女性を死ぬまで強姦するんです。

80年にフレテリンが首都を攻撃したとき再逮捕された私はアタウロ島という監獄島に収容され、そこで拷問を受けました。「フレテリンの関係者の名前を言え」って言われて。爪先に机の足の一本を置き、その上に兵士が一人ずつ乗るんです。あとは水槽に頭を突っ込まれ、裸にされて大トカゲの爪を立てられ…。囚人仲間では誰がどんな拷問を受けたか、誰が『消えた』かそんな話ばっかりで。

R　東チモールの事は殆ど日本のテレビに映らないのだけれど。

J　外国人の入国は厳しく規制されていますから。ほんのたまには『視察』もありましたよ。オーストラリアの議員団とかね。その時だけ私たちの食事は良くなり、服は新しくなり、そのかわりスパイの数もドッと増えるというわけで。

R　インドネシアの支配で『開発』が進んだと言われてますが。

J　インドネシア語を強制されて、ジャワからは移民は入れるくせに東チモール人は子どもを産むなと避妊注射をうたれて、コーヒーや石油をインドネシア軍の軍人が経営する会社に持って行かれることがですか。

R　ジョゼはインドネシア語ができるって？

J，R　敵を説得するため。（笑）

R　来るべき和平交渉にそなえてでしょう。

J　日本に支援運動ができてインドネシアは何よりびびってる。

R　日本はスハルト政権最大のスポンサーですものね。私たちの税金による援助、インドネシアに一番多くいっているんです。

J　日本の政策が変わるならインドネシアを和平交渉に引っ張り出すことも夢じゃないと思います。